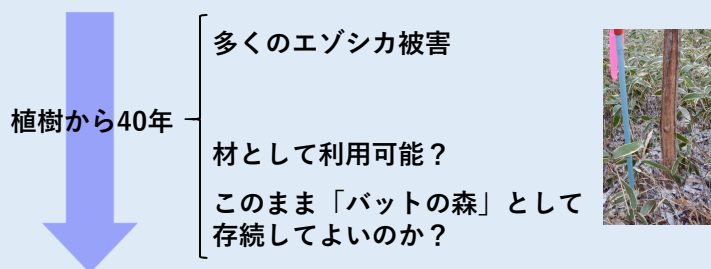


はじめに

アオダモバット材の持続的供給を目的とした「バットの森」



サンプル木が利用可能か検証し、「バットの森」の
今後について考察・提言を行う。

今後に向けて

【バットの森】

- ・シカ被害があったが、バット材として利用可能

→ 今後も「バットの森」としての維持・管理

- ・5年ごとの経過観察
- ・通直な成長にはどうしたらよいか？

【アオダモの持続的供給に向けて】

- ・最近のシカ被害はない

→ 植樹直後のシカ対策がとても重要

- ・アオダモの供給がないので、需要もない

→ 伐期を迎えたときの課題

結果・考察

【サンプル木採取】

アオダモA 材部が70%以上
露出

アオダモB 材部が25%ほど
露出

アオダモC 材部が一部露出

アオダモD 材部は未露出

3Dモデル化



外形等を保存

【聞き取り調査】

- ・アオダモB・C・D

→ 材に対して垂直に切断



アオダモA・Bは利用不可
材部の被害多



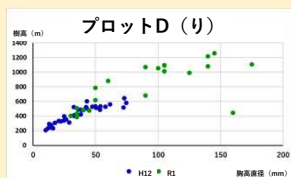
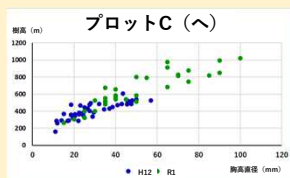
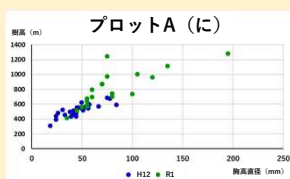
アオダモC・Dは利用可
材部の被害なし

シカ食害があっても、材部の露出が少なければ
バット材として利用可？

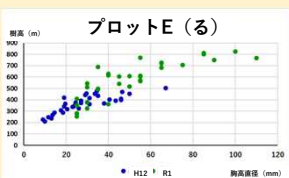
- ・現状アオダモバットがほぼ使用されていない

→ これからのアオダモの需要創出が必要？

【プロット調査】

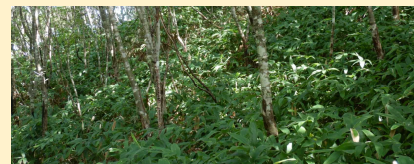


平均樹高：687.16cm
平均胸高直径：64.02mm



育成には長期間が必要

→ 林内に新しいシカ被害が
みられない



方法

【調査地】

- ・新ひだか町三石「バットの森」(3149にほへり林小班)

【プロット内調査およびサンプル木採取】

- ・各小班内の10m×10mのプロットにおいてアオダモの胸高直径と樹高を計測
- ・シカ被害の度合いが異なる4本のアオダモを採取

【聞き取り調査】

- ・空知単板工業株式会社にてバット材としての利用可否等の聞き取り

なぜアオダモ？

- 道産のアオダモ（特に日高などの産地）
- ・反発力が大きく、弾力性があること
- ・耐久力が高く、強靱なこと
- ・軽量であったこと

かつては非常に人気のバットであった
現在は、大谷翔平選手が使用している



謝辞

本研究を行うにあたり、空知単板工業株式会社の櫛引克己氏をはじめとする職員の皆様方大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます